

第17期第2回常任理事会議事録

日時 昭和47年9月25日(月) 15.00~18.00

場所 気象庁研修教室

出席者 磯野, 中山, 窪田, 伊藤, 川村, 二宮, 丸山,
河村, 大井, 駒林, 北川, 神山各常任理事

報告

〔庶務〕

1. 8月31日朝日新聞社から朝日賞候補者推薦依頼がきた。メ切10月10日まで
2. 9月2日関西支部から第10期役員の報告がきた。
3. 8月31日藤原賞, 学会賞審査委員に就任依頼をした。
4. 新委員に就任依頼をした。
5. 8月31日理事の登記をした。
6. 9月4日国際海洋開発会議, 展示会事務局から10月4日~9日東京晴海で開催される第2回国際海洋開発展の案内がきた。
7. 9月13日日本国有鉄道技術研究所長から10月6日日本工業倶楽部で開催の「鉄道100年記念鉄道技術研究所講演会」の案内がきた。

〔会計〕

1. 8月分会計報告
2. 現在印刷業者への未払が集誌 2号分 1,415,600円, 天気 1,537,200円, 正野記念論文集 1,480,000円ある。正野論文集は, 印刷実費と領布価との差額が780,000円の赤字なので学会の経理は苦しい。
追加議題とする。

〔集誌〕

1. Vol. 50 No. 5 の印刷予定論文の報告
年間頁数は予定を超えそうである。
2. 技術編集委員八塚事務局員は停年該当者になるが, 現在適任の後任がないので囑託などの方法で留任させてほしい。
追加議題とする。
3. 要報にもアブストラクトをつけられるようにする。
4. 共著者も学会員であることを要求したい。
追加議題とする。

〔天気〕

Vol. 19 No. 9 の予定目次および No. 10 の予定題目の報告

〔ノート〕

1. 今後2ヶ年間 (No. 113~No. 121) の編集予定仮題の報告
2. 編集方針は, 大学, 大学院生の教科書的なものと, トピック的なものをまぜて発行して行く。
3. 編集企画に地方委員を委嘱することについて検討中。
4. 「天気」に気研ノート編集企画についての意見募集を掲載した。

〔講演企画〕

1. 大会プログラムの分類について (議題参照)
2. 春夏講演会の地方開催について (議題参照)
3. 座長に講演内容を早く知ってもらうため予稿集のコピーを渡した。
4. 来年度の日本海洋学会の期日は10月21日~25日の予定だから仙台大会の期日決定の参考にすること。

〔国際学術交流〕

8月19日ハノイ大学コンツム学長と科学者との懇談会に神山, 小平理事が出席した。

〔学術会議〕

1. 9月18日の運営審議会で, 環境問題特別委員会より第9期中に国際環境保全科学会議を開催することを提案された。
2. 9月22日日本学術会議で各研究連絡委員会と第4部会員との懇談会が持たれた。また, 地球観測特別委員会の第9期第1回会合も持たれた。

〔大井理事〕

「学術用語集気象学編」の出版権設定について (議題の項参照)

議 題

1. 秋季大会について
最終日に座談会を開催する。出席者は理事, 編集委員, 座長, 講演企画委員, 管区側世話人とする。
2. 大会, 例会のもち方について
 - 1) 大会プログラムの分類についての案が講演企画委員会から提案され, 承認された。
 - 2) 春夏講演会の地方開催について
出席者, 旅費の問題もあるので, 次の全国理事会に提案する。
3. 学会奨励金受領候補者について

(以下 561 ページに続く)

「天気」 19. 10.

後にそれほど大きくはひろがらないので、いままで述べてきたことから κ もほぼきまった数になり、 ξ も総合で90%をこえることは考えられないし、40%を割るようでは使いものにならない。このことを念頭において、考えられる ξ と κ および τ の組合せについてFを求めると第5表ようになる。この表ではFの $\text{kg}\cdot\text{w}$ 以下は切捨ててある。

5. あとがき

気球昇降機の本質的または基本的な問題について考察し、その解決をはかった心算であるが、こまかい点については若干の問題を残したかと思う。しかし設計の基準は大筋においては解決したと考える。この種の機械の設計にあたっておこる問題は、設計者が十分に使用者側の意図を呑みこめないうちに生じる行違いで、作ってしまったからでは何かと大変な荷物となる恐れがおこり得る。私たち気象界のものもよく注意する必要がある。ここにとりあげた問題も工学界ではごく初歩的な究明であるが、私たちの間ではこう思う式か、メーカーに一任で製作される機械が多くある。しかしそれではほんとによ

いものではないか、できても高価なものとなるであろう。

今後は残された問題、ことに電気鉄道で見直され出した複巻電動機とそのサイリスタ制御の技術の導入、制動装置の改善などの解決とともに、材質の転換をはかっても軽量化を心がけ、あわせて固定方法も考えていきたいと思う。船上で使用する場合にはガイドアームを別の形式で考える必要があるが、基本的には変わらないと考えている。

今回の試作は気象研究所の根本茂技官その他の協力に負うところが大きい。また試作測定などにあたり多大の協力を払われた、KK大木製作所、田中電機工業所の方々に厚くお礼申上げる。

文 献

- 1) 中島正一(1967): 係留気球による低層気象観測について。測候時報, 34, 15.
- 2) 中島正一(1971): 係留気球について。研究時報, 23, 48頁表3

(以下562ページの続き)

選考委員会から次の3件が推薦され適当と認められたので、全理事に書面審査を依頼することになった。

1) 帯状降雨帯の研究

杉山清春, 竹内新(下関地方気象台)

2) リファレンス サイクロメーターの実験的研究

地迫良一(宇都宮地方気象台)

3) 主として暖候期のうず状じょう乱の研究

深津林, 清水喜允(福井地方気象台)

4. その他

1) 文部省編(学術用語集, 気象学編)の出版権設定について

イ. 本学会で出版を引受けることにする。

ロ. このため用語委員会を設ける。

ハ. 用語委員会は、文部省、気象学編の編さんを当面の目標とし更に用語の研究、より完全な用語集の編集を目的とする。

ニ. 用語委員会の委員は次のとおりとする。

大井正一(理事), 神山恵三(理事), 小沢正(気研予報), 俣野宏志(電計), 関口理郎(電計), 根本順吉(図書), 山田文雄(図書), 新田尚(電計)

ホ. 委員会費として外国委員会費1万円の振替を認める。

本件は全理事に書面審査を依頼する。

2) 学会の経理状況について

会計理事が資料を作成し次の常任理事会に提案する。

3) 八塚事務局員の停年延長について、次の常任理事会で検討する。

4) 気象集誌投稿者の資格について、次の全国理事会に提案する。

5. 全国理事会の議題について

イ. 春、夏の講演会の地方開催について

ロ. 天気編集地方委員の承認について

ハ. 学会の経理状況について

ニ. 気象集誌投稿の共著者の資格について

ホ. 大会プログラムの分類について(報告事項)

6. 気象研究所の筑波移転について

大井理事ほか4理事から「気象学のみならず、科学全般に大きな影響を与える」問題であるから気象学会において特に長期計画の面で取り上げてほしいと提案があり議論された。

7. 「構造物の耐風性に関するシンポジウム」の負担金として2万円を承認する。

承認事項 吉田徳雄ほか19名の入会を承認